

甲斐市立 竜王東小学校 自己評価書

令和8年1月13日（火）作成

校長 飯塚正規

記述者 職名 教頭 久保田亜希子

学校教育目標

人間性豊かで主体性に富んだ児童の育成

- (1) よく考え、進んで学ぶ子ども（自主性、創造性）
- (2) 決まりを守り、思いやりのある、心豊かな子ども（社会性、道徳性、情操生）
- (3) じょうぶでたくましく、最後までやりぬく子ども（健康な心身、強い意志）

学校経営方針

- (1) 活力に満ちた「特色のある学校づくり」を目指し、知・徳・体の調和を重視し、児童や地域の実態を的確に把握した「生きる力」を育む適切な教育課程により、多様な教育活動を通して学校教育目標の具現化に努める。また、その達成状況を把握、整理し、取組の適切さを検証することにより教育活動を組織的、継続的に改善する。
- (2) 学習指導要領の趣旨や内容に基づいた適切な教育課程を編成し、「主体的で対話的な深い学び」の実現を目指し授業改善及び評価に取り組む。オープンスクールとしての施設、設備及び学校ボランティアをはじめとする貴重な人的資源も活用し、生涯にわたり、学習する基盤が培われるよう、確かな学力をはぐくむ指導と評価に努める。
- (3) 全教育課程を通して、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てる学級集団づくりに取り組む。児童が所属感、自己有用感を持つことができるような活動に取り組み、一人一人のよさや可能性を活かすように努める。
- (4) 自ら運動を実践する態度を育成し、体力の向上を図り食育並びに心身の健康の保持増進及び安全に関する指導を関連させながら、望ましい生活習慣の育成に努める。
- (5) 保護者、地域社会との連携を深め学校内外を通じた児童の安全、安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める。

1 全体評価

本校では、教職員自己評価、児童アンケート、保護者アンケートの結果を基に、教育活動全般について自己評価を行った。教職員自己評価では、多くの項目において肯定的評価（A・B評価）が9割以上を占め、特に学校教育目標や学校経営方針に関する項目では肯定的評価が約95%に達している。これは、校長の示す経営方針が教職員に浸透し、組織的な学校運営が機能している成果であると捉えられる。昨年度と比較しても、評価傾向は同水準または微増しており、学校経営の安定性と継続的改善が確認できる。一方で、児童・保護者アンケートとの相関から、教職員の取組が児童の実感として十分に伝わっていない項目も見られ、次年度に向けた課題も明確となった。

本校の学校評価は、次の7観点で行っている。

- I 学校教育目標・学校経営について
- II 学校運営について
- III 学習指導について
- IV 生徒指導について
- V 地域との連携について
- VI 学校の特色に関して
- VII 創甲斐教育について

5段階評価（教職員・保護者）

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思わない（黄）
- D：そう思わない（緑）
- E：わからない（紫）

4段階評価（小学生）

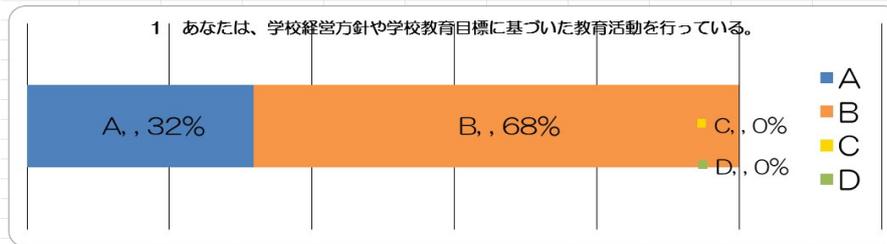
- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思わない（黄）
- D：そう思わない（緑）

また、教職員自己評価及び保護者用アンケートのそれぞれの設問は、右のような5段階評価で、小学生用アンケートについては4段階評価で行っている。教職員自己評価において、「E:わからない」については担当外の場合のみつけている。

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

・教職員自己評価では、学校教育目標および学校経営方針に関する項目で肯定的評価（A・B）がほぼ100%を占めており、校長の示す経営方針が教職員に浸透し、目標を意識した教育活動が組織的に進められていることが数値から確認できる。昨年度と比較しても同水準または微増しており、学校経営の安定性と継続性がうかがえる。



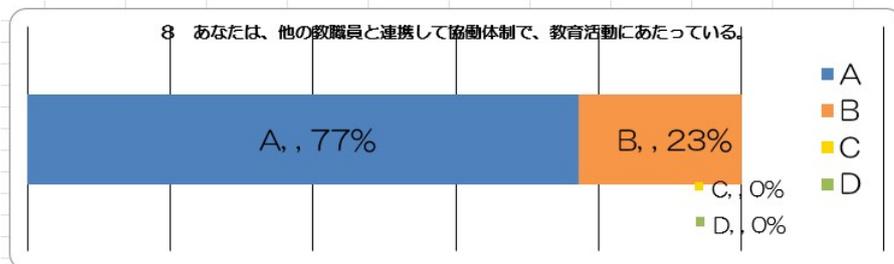
改善策

・学校教育目標と日々の教育活動とのつながりを、ホームページや学校評価結果の公表、懇談会等を通して、より分かりやすく発信する。教職員間では、引き続き学校経営方針を共有し、目標に立ち返りながら教育活動を点検・改善していく。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

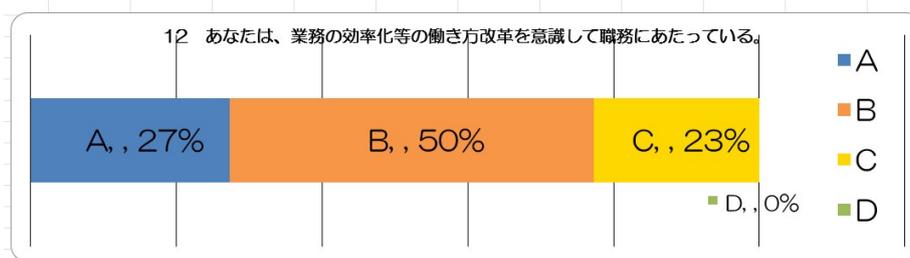
達成状況

・学校運営においては、校務分掌や学年・部会を中心とした組織的な取組を進めてきた。教職員自己評価では、「協働体制」「情報共有」「危機管理」に関するすべての項目において肯定的評価が100%と高く、円滑な学校運営が行われていると捉えている。



・昨年度と同様、教職員間の連携を重視した取組が継続されており、学校行事や生徒指導においても複数体制で対応する意識が定着している。特に情報共有や危機管理に関する項目では、前年度と比較して肯定的評価が安定しており、組織としての対応力の向上がうかがえる。

・一方、業務量や時間的負担に関する課題は引き続き見られ、働き方改革の必要性が示されている。

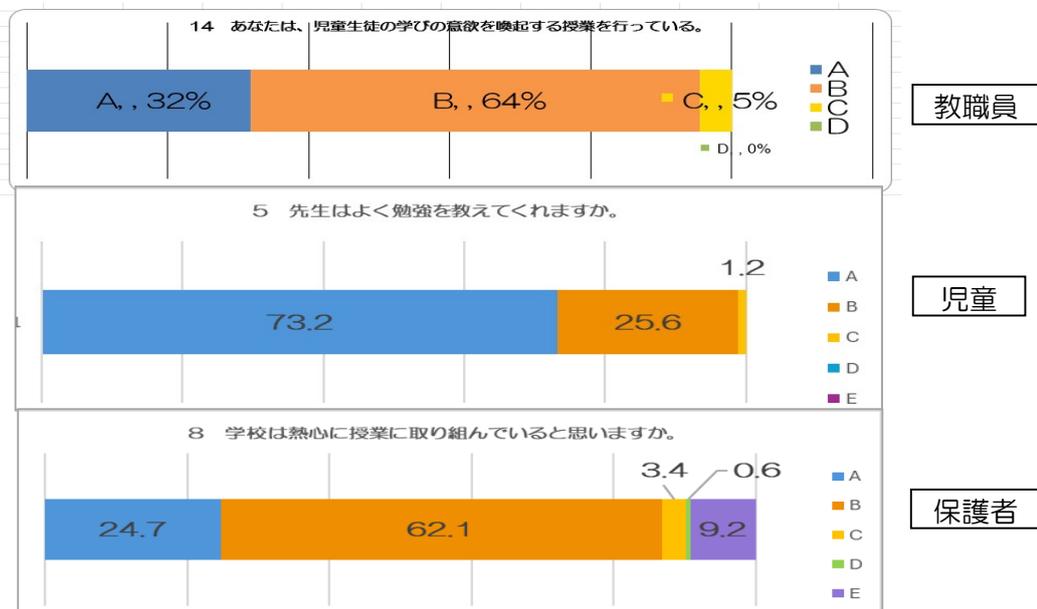


改善策
 ・校務の精選や業務の効率化を進めるとともに、教職員一人一人が役割を明確にし、協働しながら業務に取り組める体制を整える。引き続き、教職員の働きやすさ、働きがいを求め、働き方改革の視点から学校運営の改善を進める。働き方改革ワークショップの先進事例も取り入れながら、ゆとりある時間を生み出したならば、授業改善につなげることができるようにもしていく。

Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

・教職員自己評価において、「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている」という項目は、肯定的評価が約95%を占め、高い評価を示しており、授業改善や教材研究に積極的に取り組んでいる実態がうかがえる。また、児童アンケートの「先生は勉強を教えてください」という項目では、肯定的評価が高い中でも、「よく教えてください」と回答した児童が70%を超えている。一方、保護者アンケートの「学校は熱心に授業に取り組んでいる」という項目では、肯定的評価は高いものの、教職員自己評価と比較すると「わからない」と回答している保護者がいることから、学年だよりや授業参観をとおして、発信することが必要だと考える。

達成状況



・昨年度と比較すると、学習指導全体に対する評価は概ね同水準を維持しており、安定した学習環境が確保されている。児童アンケートの「国語の授業の内容はわかりますか」や「算数の授業の内容はわかりますか」では、肯定的評価が90%を超えており、教職員が児童一人一人を取り残すことのないように努力していることも明らかとなった。

改善策
 ・授業のねらいや学習の到達点を明確にし、振り返りを充実させることで、児童が学びの成果を実感できる「子供主体の授業づくり」を一層推進する。併せて、「家庭学習の手引き」を示すなど家庭への情報発信を工夫し、学習指導に対する理解を深めていく。

Ⅳ 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況
 ・教職員自己評価では、児童理解やいじめ・不登校への対応について、肯定的評価が約90%を占め、高い評価が見られた。保護者アンケートにおいても、学校生活全体を肯定的に捉える割合が高く、一定の信頼が得られている。
 ・一方、児童アンケートの「学校は楽しい」という項目では肯定的評価が高いものの、教職員の評価と比べると差が見られ、児童の内面に寄り添った指導の重要性が改めて示された。

	<p>25 あなたは、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができています。</p> <table border="1"> <caption>25 あなたは、いじめ、不登校等の早期発見・早期対応ができています。</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>36%</td> <td>59%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>47.4%</td> <td>43.4%</td> <td>5.2%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>24.7%</td> <td>65%</td> <td>6.3%</td> <td>2.3%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	A	B	C	D	教職員	36%	59%	5%	0%	児童	47.4%	43.4%	5.2%	4%	保護者	24.7%	65%	6.3%	2.3%	<p>教職員</p> <p>児童</p> <p>保護者</p>
対象者	A	B	C	D																		
教職員	36%	59%	5%	0%																		
児童	47.4%	43.4%	5.2%	4%																		
保護者	24.7%	65%	6.3%	2.3%																		
<p>改善策</p>	<p>・日常的な観察や声かけを大切にし、児童の不安や悩みを早期に把握できる体制を強化する。関係機関との連携を継続し、安心して学校生活を送ることができる環境づくりを進める。とくに、いじめに対しては毅然とした姿勢で臨み、常に重大事態チェックリストに基づいた対応を行っていく。</p>																					
<p>V 地域との連携について</p>																						
<p>達成状況</p>	<p>・地域連携に関する教職員自己評価では肯定的評価が100%を占め、地域との協働が一定の成果を上げている。地域人材の活用や見守り活動など、地域との連携は継続的に行われている。地域との関係が教育活動に生かされていると捉える回答が多かった。</p> <p>28 あなたの学校は、保護者や地域の願いに添えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。</p> <table border="1"> <caption>28 あなたの学校は、保護者や地域の願いに添えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。</caption> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・一方、保護者アンケートでは、「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思いますか」の問いに対して、約20%弱の方が「E：わからない」と回答している。「学年だよりやホームページから教育活動の様子を知ることができますか」の問いに対しては、85%を超える肯定的評価をいただいたが、情報を発信することと合わせて、情報を収集することに力を入れる必要があることがわかった。</p>		評価	割合	A	50%	B	50%	C	0%	D	0%										
評価	割合																					
A	50%																					
B	50%																					
C	0%																					
D	0%																					
<p>改善策</p>	<p>・地域との取組を積極的に発信し、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を推進する。コミュニティ・スクールの趣旨を生かし、地域との協働をさらに深めていく。</p> <p>・外部人材を活用して行っている出前授業や体験活動について、情報発信し、社会に開かれた学校としての使命を果たしていく。</p>																					

VI 学校の特色に関して

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特色ある教育活動について、「たてわり活動」、「ノーチャイム」、「のびっこタイム」など、児童の主体的な活動場面が見られ、教職員は一定の成果を感じている。 <ul style="list-style-type: none"> 特にたてわり活動については、昨年度と同様、高学年の児童がリーダーシップを発揮できるような取組体制をつくるとともに、低学年の児童もスムーズに活動に参加できる体制をつくる指導を行った成果であると考えます。 ノーチャイムについては、肯定的評価が95%となっており、児童の自主性を育み、自分で考えて行動する力をつけられるよう指導を行っていることがわかる。児童アンケートにおいても「きまりや約束ごとを守る」という項目で肯定的評価が約85%となっており、教職員の評価と差はあるものの、意識が高いことがわかる。
------	--

改善策	<ul style="list-style-type: none"> 学校の特色を教育課程全体の中に明確に位置付け、児童が日常の学びの中でその価値を実感できるよう工夫する。今後も、共通理解のもとに、効果的な指導をしていきたい。
-----	--

VII 創甲斐教育について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 教職員自己評価では、創甲斐教育の理念を意識した指導が行われていると評価されている。児童アンケートにおいても、対話や協働に関する項目で肯定的な回答が多く見られた。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 創甲斐教育の理念を、授業や学校行事の中で明確に位置付け、より児童・保護者に分かりやすく伝えていく。

3 まとめ

<成果>

- 教職員が共通理解のもと、学校教育目標の実現に向けて主体的に教育活動に取り組むことができた。本校の教職員が、学校評価の各項目を、日常の職務を遂行するための行動指針（具体的な目標）として意識し、日々の業務に使命感と責任を持って取り組んでいるということが考えられる。
- 学習指導、生徒指導、学校運営の各面で、児童・保護者から肯定的な評価を得ることができた。本校が掲げる「安心・安全・安定」の学校運営がなされており、そのことが児童や保護者に評価されていると考えられる。

<課題>

- 教職員の取組を、児童一人一人の実感につなげるために、さらなる工夫をしていく必要がある。
- 学校の取組や特色について連携を深めるために、家庭・地域への情報発信と情報収集をさらに充実させる必要がある。
- 働き方改革を更にすすめ、教職員が働きやすさと働きがいを感じながら、児童に対して丁寧な指導ができるようにしていく。